東日本大震災を忘れない！

被災3県知事のメッセージ

今年も犠牲者に冥福祈る

1万8千人以上の死者・行方不明者を出した東日本大震災の発生から3年目を迎え、日本の被災各地はもちろん、7面に詳報したように聖市の宮城県人会でも追悼行事が行なわれ、地震発生時刻の午後2時46分に黙とうが捧げられ、犠牲者の冥福を祈り、みなが復興への想いを新たにした。本紙では、宮城県人会の追悼式典で読まれた岩手、宮城、福島3県知事のメッセージと同時に、各地の模様を報じた共同通信の記事を掲載した。

（知事写真は各県庁サイトより）

海と大地と共に生きる故郷

岩手県　達増拓也知事

東日本大震災3周忌追悼式が、ここサンパウロにおいて開催されますことを、岩手県民を代表して心から御礼申し上げます。

震災での津波発災以降、ブラジルの皆様をはじめ、世界各地からたくさんの温かいお見舞いや激励、義援金の提供など、改めて心から感謝申し上げます。

発災から本日で3年となりますが、岩手県においてはこれまで「安全」「暮らし」「なりわい」の3つの原則に基づいて、復興の基盤づくりに全力で取り組んできました。

その結果、災害廃棄物の処理に目途が付き、応急仮設住宅からの移転先となる、災害公営住宅では敷地となる事業用地の約6割を取得し、さらに水産業の水揚げ量は平年の約7割まで回復しています。一部運行していた三陸鉄道も4月には全線が復旧します。

これからは将来にわたって持続可能な、地域社会の構築を目指す「本格復興」に取り組む期間です。県ではその一年目となる今年を、「本格復興推進年」としています。

復興計画に掲げる復興の目指す姿、「いのちを守り　海と大地と共に生きる　ふるさと岩手・三陸の創造」を実現するため、住民が復興に参画し、県民がひとつとなって進んで参りますので、より多くの皆様の一層の御支援、御協力をお願いするものであります。

結びに、この度の3周忌追悼式の開催に御尽力されました、関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、御参会の皆様方のますますの御活躍と御健勝を心からお祈り申し上げます。

海抜10メートルの巨大防潮堤がありながら、約220人の死者・行方不明者が出た岩手県宮古市田老地区の様子。大震災の3ヵ月後に撮影した大堤防の内側には更地が広がっていた

今も応急仮設住宅暮らし多い

宮城県　村井嘉浩知事

本日、ブラジル宮城県人会をはじめとする東日本大震災の被災3県人会共催の下、本式典を開催いただきますことに、心から感謝申し上げます。

時間の経過とともに、震災の記憶の風化が懸念される中、多くの皆様の御尽力により、遠く離れた御地ブラジルでこのような催しがされますことは、被災地で復興・復旧に取り組む私たちにとりまして、大変励まされるものであります。

震災から早くも3年が経過いたしますが、沿岸部を中心に今なお多くの方々が応急仮設住宅などでの不自由な暮らしを余儀なくされており、経済活動の基盤回復についても、まだまだ課題を抱えた状況にあります。

しかしこうした中におきましても、本県では今年度までに、災害廃棄物の処理が完了する見込みとなるなど、復旧・復興への歩みは着実に進んでおります。

今後も被災者の生活再生に向けた施設の復旧・復興やまちづくりを一層加速させるとともに、創造的な復興に向け県民一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

新産業を創出する取り組み

福島県　佐藤雄平知事

本日ここに東日本大震災3周忌追悼式が執り行われるに当たり、福島県民を代表し、謹んで追悼の言葉を捧げます。

開催に御尽力いただきました3県人会を始め、関係者の皆様に心から敬意と感謝の意を表します。

県では地震と津波、原発事故により、あらゆる分野で甚大な被害を受け、風評も根強く残るなど厳しい状態が続いております。

一方世界中の方々から温かいご支援と、県民の努力により、着実に元気を取り戻してまいりました。企業の生産活動や、観光地の賑わいも戻りつつあります。

本県沖では、世界最大規模となる浮体式洋上風力発電の実証実験が始まり、再生可能エネルギーや医療機器関連といった本県の未来を拓く鍵となる新たな産業を創出する取り組みも動き出しております。

県内農産物につきましても、米の全量全袋検査を始めとして、生産、流通、消費の各段階において放射性物質検査をしっかりと行うことにより、国内外の皆様に安心して食べていただけるよう取り組んでおります。

環境の回復、農林水産業の再生、観光の振興、雇用の創出などを着実に進め、一日も早く復興を成し遂げてまいりたいと考えております。

福島に思いを寄せてくださる方がいらっしゃること、これが復興への大きな支えとなります。これからも「ふくしまからはじめよう。」〝Future From Fukushima.〟を合言葉に、全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

岩手県宮古市の港湾部に積み上げられた山のようなガレキ（2011年5月撮影）

「助けられた命あった」

浪江町、津波犠牲者を捜索

【共同】全域が原発事故の避難区域で、津波で今も33人の遺体が見つかっていない福島県浪江町では11日、遺族会の約70人や町職員らが、県警や海保の捜索に参加した。

浪江町では原発事故による避難指示のため、震災直後から約1カ月間、捜索が中断した。馬場有町長は「助けられた命があった。悔しさや悲しさは消えない。でも前を向かないと」と涙を浮かべた。

請戸地区で両親と弟を亡くし、両親が見つかっていない准看護師本居春江さん（29）は捜索に加わり「ようやく両親が亡くなったことを実感し、向き合えた気がする。前を向き、もっと良い未来になるよう一歩を踏み出したい」と話した。

浪江町で生まれ、震災当時は結婚して仙台市に住んでいた。11日午前、姉妹や親戚とコンクリートの基礎部分しか残っていない自宅跡を訪れ、花を手向けた。

町内で開かれた町の追悼式では、遺族代表としてあいさつ。「命の尊さやはかなさ、この惨事を経験した私たちだからこそできることがある。前よりも魅力ある浪江町になるよう力を尽くす」と語った。

亡き人思いあふれる涙

2時46分、静かな祈り

【共同】3年が経過しても亡き人を思い涙があふれる―。11日午後2時46分。サイレンが鳴り響く被災地で、人々は静かに祈りをささげた。

津波で12人の従業員が犠牲となった宮城県女川町の七十七銀行女川支店跡地では遺族が黙とう。長女を失った丹野長子さん（82）は「だんだん思い出すようになって…」と何度も涙をぬぐった。

町職員らが犠牲になった同県南三陸町の防災対策庁舎にも多くの人が献花に訪れた。長男宏規さん＝当時（33）＝が行方不明のままの同県気仙沼市の村上勝正さん（64）は「気持ちの整理がつかない。もう3年か」とつぶやいた。

児童、教職員計84人が死亡、行方不明となった同県石巻市の旧市立大川小。早朝から訪れる人が途切れず、次々にユリや菊の花を供えた。

佐藤敏郎さん（50）は亡くなった6年生のみずほさん＝同（12）＝に「みんな来てるよ」と声を掛けた。紫桃千聖さん＝同（11）＝の母さよみさん（47）は「少しでも笑顔を増やせるように頑張るからね」と約束した。

「ただただ、胸が締め付けられる思い」「一緒にいてやれなかったのが残念」。東京・国立劇場で開かれた政府主催の追悼式で、遺族代表が亡くなった家族への思いを語ると、会場からすすり泣く声が漏れた。消防団員の父を亡くした岩手県大船渡市の岩城圭祐さん（18）は、地元の大学工学部への進学が決まり「人のために行動できる素晴らしい父を見習い、大学で学ぶことを復興に役立てたい」と決意を語った。

大震災の3カ月後、大津波の後に町中が火災に見舞われ、その高熱で曲がった陸中山田（岩手県）の線路の様子

最後の避難所でも黙とう

「帰りたいが帰れない」

【共同】大震災と原発事故による最後の避難所だった旧埼玉県立騎西高校（加須市）で11日、周辺で暮らす福島県双葉町民ら約100人が集まり、地震発生時刻に黙とうをした。

校舎に隣接する生徒ホールには献花台が設けられ、訪れた人たちが線香を上げた。鵜沼一夫さん（66）は「双葉町のわが家や飼っていた牛の顔がまぶたに焼き付いている。帰りたいと思うが帰れない。何も変わっておらず、がむしゃらに前に向かっているだけ」と悔しさをにじませた。

「ここが自分の居場所だった」。避難所を出た後も、加須市内で生活しながら生徒ホールのカフェを手伝っていた横山とみ子さん（59）は、片付けられた光景を見て寂しい気持ちになったという。「でも久しぶりにみんなの元気そうな顔を見られて、うれしかった」と笑顔を見せた。

高校の避難所では、最も多い時で1423人が暮らし、昨年12月まで2年9カ月間続いた。

◇休載のお知らせ◇

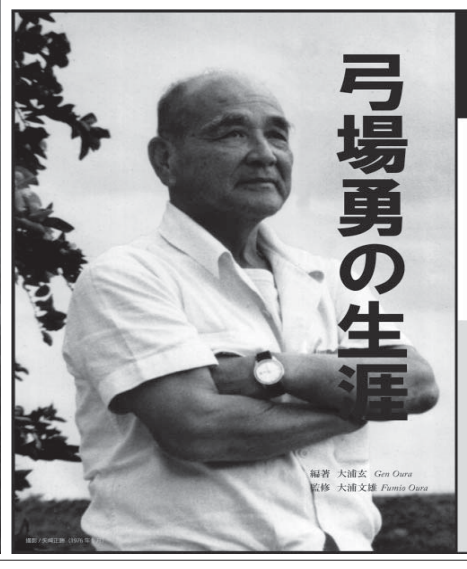
紙面の都合で、小説『日本の水が飲みたい』を休みます。

日伯両語で
子や孫に移民の歴史伝える一冊
アマゾン日本人入植80周年記念
アマゾン
R$70
ご購入は
サン パウロ
●ニッケイ新聞社（11-3340-6060）●ブラジル日本移民史料館（11-3209-5465）
●フォノマギ竹内書店（11-3104-3399）●太陽堂（11-3208-6588）
●高野書店（11-3209-3313）●熟連クラブ（11-3209-5935）
●レストラン トメアスー（11-5589-9124）
Rua Guarú 122 - 地下鉄プラッサ・ダ・アルボレ駅から徒歩1分
モジ ダス クルーゼス
●BANCA PATAO (11-4799-8299) c/ Marcelo - Pça Dona Firmina Santana, 33 - Centro
アマゾン地域
●汎アマゾニア日伯協会（91-3229-9082）●西部アマゾン日伯協会（92-3234-7185）
●トメアスー文化農業振興協会（91-3734-1319）
出版 ニッケイ新聞
協賛
FUNDAÇÃO KUNITO MIYASAKA
Santander
HONDA
HOSS CONSTRUTORA
郵便でのご注文の方は、●太陽堂 ●フォノマギまで。詳しくはニッケイ新聞社 11-3340-6060 担当マリア

a kenko hirose
健康食品
プロポリス・アガリクス専門店
日本への発送もしております。
Rua Barão de Iguape, 208 - Liberdade - São Paulo
（バロン・デ・イグアッペ街とガルボン・ブエノ街の角）
Tel.: (11) 3271-5608 • Fax: (11) 3271-5716
E-mail: kenkohirose@uol.com.br

PERFUMARIA TAKEO
たけお店
化粧品専門
二九四一・九二三三

事務局員募集
日本語を応援するやりがいのある仕事です。履歴書を下記宛にお送りください。
ブラジル日本語センタ
info@cblj.org.br



神の啓示か、天の啓示か…
日系コロニアの未来を預言する弓場勇（弓場農場の創設者）の毀誉褒貶ある生涯が今よみがえる！
『弓場勇の生涯』
大浦玄（編著）大浦文雄（監修）
頁数：325ページ、全文ふりがな付き
発行者：サンパウロ青年図書館
発行月：2013/2
日系各書店、ニッケイ新聞社本社で好評発売中！一冊70レアル

病気平癒・健康祈願
南米神宮
R. Estado de Israel, 76
Vl. Clementino - S. Paulo - SP
Fone: (11) 5575-4783
www.temploxintoista.org.br

ADVOCACIA CÍVEL
CRIMINAL - TRABALHISTA
Dr. PEDRO HANDA
Rua da Glória, 332
5º andar - Sala 51
Liberdade - São Paulo - SP
Tel. (11) 98208-3650